

令和 7 年度
学校関係者評価結果報告書

専門学校 久留米自動車工科大学校

1 学校関係者評価の目的

専門学校久留米自動車工科大学校における学校関係者評価は、「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って、以下の点を目的として実施する。

- (1) 自己点検評価の評価結果について学校外の関係者による評価を行い、自己点検評価結果の客観性・透明性を高めること。
- (2) 学生・卒業生、関係業界、高等学校、保護者、地域住民や所轄庁・自治体の関係部局など、専修学校と密接に関係する方の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ること。

2 学校関係者評価委員の構成

学校関係や評価委員は、以下の人員で構成する。

- (1) 関連業界関係者
- (2) 実務に関する知識・技術・技能について知見のある企業職員
- (3) 高等学校教員
- (4) 卒業生代表（本校同窓会会長）
- (5) 保護者代表（本校後援会会長）

3 学校関係者評価の実施方法

- (1) 日時
令和8年7月23日（木） 16時～
- (2) 場所
専門学校久留米自動車工科大学校 本館1階会議室にて実施
- (3) 概要
 - ・ 学校側から自己点検に関する項目の概要説明及び自己評価・現状と課題について説明
 - ・ 重要案件では具体例を示して詳細を説明

4 各項目における学校関係者評価

※ 評価標記： 4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切

教育理念・教育目標・育成人材像等

1 学校の教育目標

- ① 自動車整備士として専門的知識と技能を有する人材を育成すること。
- ② 社会人として、社会性を備えた人材を育成すること。
- ③ 社会貢献できる自動車整備士を育成すること。

以上、「人間味豊かな産業人の育成」が本校の役割であり目標である。

2 令和7年度の取り組み

「学校の教育目標」の達成にむけて主に以下の項目を実施した。

教育 関係	改正学校教育法に対応するとともに、持続可能な経営基盤を構築するために学科再編、適正定員、学納金増等を行うための学則改正を行った。
	カリキュラムを見直し、自動車整備士の新資格制度(二級総合)に対応した授業を開始した。
	各種研修会(自動車メーカー主催、福岡県専修学校各種学校協会主催)への参加等、教員の教育力向上に努めた。
	教育課程編成委員会を2回開催し、結果を踏まえて教職員を対象にSNSリテラシー研修を実施した。
	企業との連携授業の実施や企業研究授業等を行い、現場の最新技術の情報や就職に役立つ企業情報を学生に提供する等、企業との連携の充実を図った。
	好評である保護者の実習授業参観を1年生、車体2年、一級3年生に昨年同様に継続実施した。
	授業の理解が不十分な学生の支援や個人の技能を高めるためにフリースタイルラーニングを継続実施した。
	JAFと連携した『巻き上げ機講習』の実施、後援会の支援でフォークリフト教習受講の助成等を行い、学生の資格取得の充実に取り組んだ。
	就職支援システム「Handy」を導入し、学生がスマホで就職情報を閲覧できるようにした。併せて教員の事務負担の軽減を図りながら、丁寧な就職活動支援を行い、15年連続で就職内定率100%を達成した。
	一人暮らしの学生に対し訪問指導を実施した。また、カウンセラーが授業・実習状況を見学し、学生の学習状況について教員へコンサルテーションを行った。
	教育環境整備のため、老朽化した実習車両の入れ替え(マーチ2台)や追加(ワゴンR3台)を行った。
	関係団体、企業からの寄附により冷水器やウォシュレットの設置(後援会)、実習作業台等の更新(同窓会)、マニュアルトランスミッション10台(ダイハツ工業(株))の新規導入等を行うことができた。
学生 募集	2号館1階の照明のLED化、老朽化した本館2階空調設備更新工事(125 教室、134 教室)、5号館へのクーリングスペースの設置等、教育環境を整備した。
	WEB 広告やLINE 等の SNS を活用した広報施策を実施した。
	体験を重視した少人数、リクエスト型のオープンキャンパスを継続実施した。
	本校への進学が継続されるように、在籍学生3人以上の出身高校12校に対し、学生の写真・メッセージ付きのチラシを持参・配布し、学生の学びの状況をPRした。
	今後の学生募集に活かすため、熊本県内の指定校20校に対する高校訪問を業務委託で実施した。
	女子学生確保に向け、OCで在籍女子学生とOGの現役女性整備士との対談等を行った。
	学校案内は、クルマ好きをターゲットとした内容から、整備士の魅力をアピールする内容に刷新した。

地域 貢献	高校生ものづくりコンテスト福岡県大会(自動車整備部門)に対する会場提供及び本校教員が審査業務を担い、地域の人材育成に貢献するとともに、来場者に対し本校のPRを行った。
	企業とのコラボにより、広川まつりの「子ども職業体験コーナー」へ参加し、整備士の仕事の魅力を子どもを中心とした多世代にPRした。
	本校周辺の清掃活動の実施等ボランティア活動を継続実施した。
	全学年による献血活動を6月と11月の年2回実施した。

3 評価項目の達成および取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目		適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
①	教育理念・目標を具体的に定めているか (3つのポリシーが反映されているか)	④	3	2	1
②	教育理念・目標は各媒体に明示されているか	④	3	2	1
③	教育理念・目標に基づき、適切な授業計画を作成し、同じ方向性を持って授業遂行できているか	④	3	2	1
④	学校を取り巻く社会環境変化に対応し、必要に応じて教育手法や授業計画を柔軟に見直しているか	④	3	2	1

■課題・各種対応

令和7年度から新カリキュラムに対応した授業を開始した。また、学則変更により、改正学校教育法への対応と、整備士資格制度の変更に対応した。併せて、教育課程編成委員会等を活用し、現場のニーズに対応した教育に取り組んだ。今後も、社会に貢献できる自動車整備士の育成に向け、社会環境に対応した教育課程の見直し等に不断に取り組んでいく。

(2) 事業計画に沿った学校運営

評価項目		適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
①	単年度事業計画と予算は、法人の正当な手続きに基づき作成・決定されているか。	④	3	2	1
②	毎年の個別事業の実施成果を評価すると共に、評価に対応した改善計画を作成しているか	④	3	2	1
③	事業計画及び事業報告書並びに予算・決算等を情報公開しているか	④	3	2	1

■課題・各種対応

令和7年度から令和9年度の事業計画は、「第3次後期実施計画」として法人で取りまとめ、予算・決算とともに理事会・評議員会での議事を経てHPで公表している。この実施計画の中で目標を定め、各年度ごとの取組みを評価し、次年度の取組みに反映させている。令和9年度には第4次実施計画づくりに取り組む必要がある。

(3)教育理念・目標に基づいた学校全体の教育活動・個別の教育活動

評価項目		適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
①	学生受入れの方針の設定、適切な受入数の確保ができているか	4	③	2	1
②	教育理念・目標に基づいた教育を展開するためのカリキュラムポリシーの設定が成されているか	④	3	2	1
③	カリキュラムポリシーは教員に共有化されているか	④	3	2	1
④	シラバス(授業プラン) は教育理念を反映されたものであるか	④	3	2	1
⑤	シラバスの内容は教員に共有化されているか	④	3	2	1
⑥	職業教育としての専門性確保のため、産業界のニーズを反映したカリキュラムとなっているか	④	3	2	1
⑦	個々の授業に対する学生の満足度を高めるために、授業内容及び授業方法の改善に取り組んでいるか	④	3	2	1

■課題・各種対応

新入学生の確保は昨年比 6 名減となった。学生の満足度を高めるために年 2 回実施しているアンケートは、結果を教員にフィードバックし、授業の改善に活用している。また、企業との連携授業や教育課程編成委員会での協議等、文部科学省の職業実践専門課程認定校として、企業との連携は積極的に実施している。著しい自動車整備技術の高度化に対応するために、今後一層連携を強化していく必要がある。

(4) 学習成果の実現向上

評価項目		適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
①	履修認定基準は公正であるか	④	3	2	1
②	各学科卒業生及び修了生の資格試験の合格状況は目標に達しているか	4	③	2	1
③	各学科卒業生の就職状況は目標に達しているか	④	3	2	1
④	履修状況(出席状況・期末試験の結果)に応じた学修支援は十分か	④	3	2	1
⑤	各学科の進級状況は適切か	④	3	2	1
⑥	退学者数は減少しているか、また退学に至るまでの対応は適切であるか	4	③	2	1
⑦	資格試験合格のための対策授業を実施しているか、それは適切か	4	③	2	1

■課題・各種対応

学修の結果としての国家試験の合格率は二級ディーゼルが 92.9%と全国平均を2ポイント下回ったが、一級が 90.9%(全国 50.0%)、二級ガソリン 98.2%(全国 92%)、車体 100%(全国 95.4%)と全て全国平均を超えたが、目標の 100%には至らなかった。そのことを踏まえ、③、⑦の項目では、3と評価している。

なお、⑥の評価項目である退学者数は昨年の 17 名から 14 名に 3 名減となったが依然多い。引き続き、国家試験100%の合格と退学者数の減少を目指し、学修支援の充実とスクールカウンセラーとの連携強化等の取組みを進めていく。

(5) 学生の教育及び生活における課題解決に対する支援

評価項目		適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
①	学生の教育課題や生活課題を把握し、課題への対応を検討・実施しているか	④	3	2	1
②	学生のメンタルヘルス面での課題を早期に発見し、専門的な個別指導を促すことを実行できているか	④	3	2	1
③	就学の経済問題の相談に対し、国・県の支援制度を活用しているか	④	3	2	1
④	就学の経済問題の相談に対し、校納金の延納、分納、奨学金制度の情報提供を行っているか	④	3	2	1

■課題・各種対応

修学支援制度等について、担当者による学生への説明会等は開催しているが、これまでの制度運用の中で、保護者が十分理解しているのかという点では懸念が残るケースがあった。今後、より一層分かり易い説明に努めるなど、制度を正しく理解し、適切な利用に繋げるために取組みを充実させる必要がある。

(6) 教育環境

評価項目		適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
①	自動車の整備技術の進化に対応し、実習教材を整備・充実させているか	④	3	2	1
②	学生の在籍状況に応じた学習施設の維持・補修を行い、必要に応じて教育機能の充実を図っているか	4	③	2	1
③	学生の福利厚生施設の検討を行い、必要に応じて整備できているか	4	③	2	1

■課題・各種対応

項目①について：現時点で令和9年度に改訂される教科書に整合する環境を整えている。

項目②について：LED 化や学習施設更新については、経営状況を踏まえて令和8年度から予算措置を行い、計画的に整備を進めることとした。

項目③について：令和8年度に向けて、令和7年度の後援会総会及び後援会幹事会で了解を得ることができた。令和8年度に後援会総会で予算案を承認頂き、具体的に取り組むこととしている。

(7) 学生募集の充実とマネジメント

評価項目		適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
①	学生募集を強化し、全学科合わせて目標の入学生を確保できているか	4	③	2	1
②	入学生確保のためのOC開催、WEB広告充実など多様な学生募集を展開しているか	④	3	2	1
③	入学生確保による収入の増加と経常的支出を計画的に削減することで収支安定を図っているか	4	③	2	1
④	持続可能な財務基盤は確立されているか	④	3	2	1
⑤	教職員の資質・能力向上に向けた研修を実施したか	④	3	2	1

■課題・各種対応

項目①、②、③について:学生募集は Web や SNS を活用した広報を実施したが、その結果としての令和 8 年 4 月の入学者数は前年度比 6 名減となった。収支安定を図るために令和 6 年度末の学生寮廃止に続き、令和7年度は精緻な予算執行に努めた。

項目④について:今後の 18 歳人口の減少を踏まえて、持続可能な経営基盤を確立するために、魅力を向上させる学科の再編や適性定員、物価高騰に対応した学納金の見直し等のため、学則変更を行った。

項目⑤について:企業主催の研修や福岡県専修学校各種学校協会主催の研修への参加や独自に SNS リテラシー研修を開催するなど、教員の資質・能力向上に取り組んだ。

(8) ガバナンスとコンプライアンスの確保

評価項目		適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
①	学校の組織的運営のため、職員会議をはじめとする各種会議の適正な開催と組織的な統制は確保されているか	④	3	2	1
②	法人理事会・評議委員会の意思決定及び法人監査による監査指摘への対応に基づく円滑な学校運営はなされているか	④	3	2	1

■課題・各種対応

私学法や学校教育法の改正により、専門学校には今後一層のガバナンスの強化やコンプライアンス遵守が求められる状況となっている。学校としての取組みを有効に機能させるための規程やマニュアル等の整備に必要に応じて取り組んでいく。

以上